

# 公立高等学校配置計画案

(令和5年度(2023年度)～7年度(2025年度))

令和4年(2022年)6月

北海道教育委員会



# 目 次

I	公立高等学校配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））策定の考え方	
1	趣旨	1
2	中卒者数の見込み	1
3	基本的考え方	1
4	配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））の概要	2
5	地域連携特例校等の再編整備の留保	3
6	配置計画の変更	3
II	公立高等学校配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））の内容	
1	中学校卒業生数	4
2	欠員の状況	4
3	定員及び中学校卒業生数に対する割合	4
4	配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））の学校別内訳	5
5	中学校卒業生数の推計及び推移	9
III	公立高等学校配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））学区別個表	
	空知南学区	11
	空知北学区	12
	石狩学区	13
	後志学区	15
	胆振西学区	16
	胆振東学区	17
	日高学区	18
	渡島学区	19
	檜山学区	20
	上川南学区	21
	上川北学区	22
	留萌学区	23
	宗谷学区	24
	オホーツク中学区	25
	オホーツク東学区	26
	オホーツク西学区	27
	十勝学区	28
	釧路学区	29
	根室学区	30

# I 公立高等学校配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度）） 策定の考え方

## 1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、令和5年度（2023年度）から令和7年度（2025年度）までの高校配置の計画を策定するとともに、令和8年度（2026年度）から令和11年度（2029年度）までの見通しを示したものである。

## 2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、令和5年（2023年）に4万1,116人、令和6年（2024年）に4万946人、令和7年（2025年）に3万9,977人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

## 3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、平成30年（2018年）3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを行う観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、次のとおり多様なタイプの高校づくり等を推進する。

### (1) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を進める。

### (2) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

### (3) アンビシャス・スクールの導入

多様な学校選択幅のある学区において、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育むことに重点を置くアンビシャス・スクールの導入を進める。

### (4) 普通科新学科の設置

学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に則した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科及び地域や社会の将来を担う人材を育成し、現在・将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに重点的に取り組む学科の設置を進める。

### (5) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

### (6) 地域連携特例校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域連携特例校とし、協力校との連携や北海道高等学校遠隔授業配信センターからの遠隔授業の配信など、教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

#### 4 配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））の概要

昨年決定した令和5年度（2023年度）及び令和6年度（2024年度）の計画を一部変更するとともに、新たに令和7年度（2025年度）の配置計画を策定する。

##### (1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

##### (2) 令和5年度（2023年度）（令和3年度（2021年度）決定）高校配置計画の変更 全日制課程

###### ア 地域連携特例校の導入

令和5年度（2023年度）募集学級数が1学級の場合に、教育環境の維持向上を図るため、天塩高校及び弟子屈高校を地域連携特例校とする。

###### イ その他

令和4年度（2022年度）道立高等学校入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ学級減を行った栗山高校など20校の令和5年度（2023年度）の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。

##### (3) 令和6年度（2024年度）（令和3年度（2021年度）決定）高校配置計画の変更 全日制課程

###### ア 学級減

1学級減とする利尻高校の学科は、生徒の進路動向を考慮し、商業科とする。

###### イ 学級減・学科転換

1学級減とする釧路商業高校については、既存の4学科を流通マネジメント科、会計マネジメント科、情報マネジメント科に学科転換する。

###### ウ 学科転換（普通科新学科の設置）

(ア) 釧路湖陵高校については、地域医療人材や科学技術系人材の育成、また地域社会や国際社会という枠組みにとらわれない課題の解決に取り組む生徒の育成の必要性や地域からの要望などを総合的に勘案し、普通科を普通科新学科に学科転換する。

(イ) 大樹高校については、現代の地域社会が抱える人口減少などの課題に対応し、地域や社会の将来を担う生徒の育成の必要性や地域からの要望などを総合的に勘案し、普通科を普通科新学科に学科転換する。

###### エ その他

岩見沢東高校について、令和6年度（2024年度）の1学級減を、令和7年度（2025年度）での岩見沢東高校と岩見沢西高校の再編に変更する。

##### (4) 令和7年度（2025年度）高校配置計画

###### 全日制課程

###### ア 学級減

通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを勘案し、深川東高校及び室蘭工業高校の2校で各1学級の減を行う。

#### イ 再編統合・学級増

岩見沢市内において、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況、地域の要望などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、岩見沢東高校及び岩見沢西高校を再編統合し、新設校を設置する。

なお、新設校の募集学級数は6学級、岩見沢西高校の校舎を使用する。  
また、学区における学校・学科の配置状況、生徒の進路動向などを総合的に勘案し、再編に併せて、岩見沢緑陵高校普通科で1学級の増を行う。

#### ウ 再編統合・単位制の導入

富良野市内において、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況、地域の要望などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、富良野高校及び富良野緑峰高校を再編統合し、新設校を設置する。

なお、新設校の募集学級数は5学級、富良野緑峰高校の校舎を使用し、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、単位制を導入する。

#### エ 再編整備

穂別高校（地域連携特例校）について、再編整備を留保していたが、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続10人未満となったため、募集停止とする。

#### オ 単位制の導入

生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、留萌高校の職業学科（情報ビジネス科、電気・建築科）に単位制を導入する。

#### カ 普通科フィールド制の転換

生徒の特性や進路希望等を踏まえ、教育課程の工夫・改善を図るため、札幌あすかぜ高校及び札幌平岡高校の普通科フィールド制を普通科に転換する。

### 5 地域連携特例校等の再編整備の留保

第1学年1学級の高校のうち、地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は再編整備を進めることとしているが、夕張高校、長万部高校、豊富高校及び倶知安農業高校は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案し、再編整備を留保する。

### 6 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(4)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合
- (2) 5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合
- (3) 学級減と併せた学科転換、地域連携特例校の導入等を実施する場合
- (4) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

## II 公立高等学校配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））の内容

### 1 中学校卒業生数

令和4年(2022年)(実績)	41,845人	(対前年比 862人増加)
令和5年(2023年)(推計)	41,116人	(対前年比 729人減少)
令和6年(2024年)(推計)	40,946人	(対前年比 170人減少)
令和7年(2025年)(推計)	39,977人	(対前年比 969人減少)

### 2 欠員の状況 (令和4年(2022年)5月1日現在)

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合計
3,655人 (-113人)	1,231人 (-35人)	833人 (-237人)	5,719人 (-385人)

※ ( ) は対前年増減

### 3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区 分		公 立			高等専門学校	私立	計	
		全日制	定時制	中等教育学校				
令和4年度	定 員 (人)	30,090	2,200	240	720	11,247	44,497	
	割 合 (%)	71.9	5.3	0.6	1.7	26.9	106.3	
公立高等学校配置計画案	令和5年度	学級増 (人)	0	0	0	0	0	0
		学級減 (人)	-280	0	0	0	0	-280
		新 設 (人)	200	0	0	0	0	200
		募集停止 (人)	-280	0	0	0	0	-280
		差引増減 (人)	-360	0	0	0	0	-360
		定 員 (人)	29,730	2,200	240	720	11,247	44,137
		割 合 (%)	72.3	5.4	0.6	1.8	27.4	107.3
令和6年度	学級増 (人)	0	0	0	0	0	0	
	学級減 (人)	-200	0	0	0	0	-200	
	新 設 (人)	0	0	0	0	0	0	
	募集停止 (人)	0	0	0	0	0	0	
	差引増減 (人)	-200	0	0	0	0	-200	
	定 員 (人)	29,530	2,200	240	720	11,247	43,937	
	割 合 (%)	72.1	5.4	0.6	1.8	27.5	107.3	
令和7年度	学級増 (人)	40	0	0	0	0	40	
	学級減 (人)	-80	0	0	0	0	-80	
	新 設 (人)	440	0	0	0	0	440	
	募集停止 (人)	-640	0	0	0	0	-640	
	差引増減 (人)	-240	0	0	0	0	-240	
	定 員 (人)	29,290	2,200	240	720	11,247	43,697	
	割 合 (%)	73.3	5.5	0.6	1.8	28.1	109.3	

※1 高等専門学校及び私立の定員については、令和5年度（2023年度）以降は見込みを記載。

※2 霧多布高校（浜中町立）は、1学級の定員を30人としている。

※3 えりも高校（えりも町立）は、1学級の定員を35人としている。

#### 4 配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））の学校別内訳

##### ◎ 令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度）高校配置計画

##### (1) 令和4年度（2022年度）道立高等学校入学者選抜における第2次募集後に学級減となった学校の取扱い

学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	R 4 (2022) 募集学級数	R 4 (2022) 開設学級数	R 5 (2023) 募集学級数
空 知 南	道	栗 山	全	普 通	2	1	計画決定時 に 公 表
	道	札幌丘珠	全	普 通	8	7	
	道	札幌南陵	全	普 通	3	2	
	道	札幌あすかぜ	全	普 通	4	3	
	道	札幌白陵	全	普 通	4	3	
	道	北広島西	全	普 通	6	5	
	道	当 別	全	普 通	2	1	
後 志	道	余市紅志	全	総 合	2	1	
	道	岩 内	全	普 通	3	2	
胆 振 西	道	伊達開来	全	普 通	6	5	
上 川 南	道	美 瑛	全	普 通	2	1	
	道	羽 幌	全	普 通	2	1	
留 萌	道	天 塩	全	普 通	2	1	
	道	美 幌	全	普 通	2	1	
オホーツク中	道	湧 別	全	普 通	2	1	
十 勝	道	清 水	全	総 合	3	2	
	道	大 樹	全	普 通	2	1	
	道	広 尾	全	普 通	2	1	
	道	池 田	全	総 合	2	1	
釧 路	道	標 茶	全	総 合	3	2	
計		全20校					

##### (2) 学級増減

##### ① 学級増

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
R 5 (2023)									
R 6 (2024)									
R 7 (2025)	空 知 南 市		岩見沢緑陵	全	普 通	3	4	+1	5学級→6学級
計			1校					+1 (+40)	

- 令和5年度（2023年度）から、岩見沢緑陵高校普通科は、コースごとの募集（普通コース2学級、スポーツ総合コース1学級）を、普通科3学級の募集へ変更し、令和7年度（2025年度）については、普通科4学級の募集とする。



② 学級減（※印は、令和3年度（2021年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
R 5 (2023)	後 志	道	小 樽 潮 陵	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級
						4	3	-1	6 学級→5 学級
	胆 振 西	道	室 蘭 栄	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級
						6	5	-1	6 学級→5 学級
	上 川 南	道	旭 川 北	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級
						6	5	-1	6 学級→5 学級
	道	旭 川 南	全	綜 合	6	5	-1	6 学級→5 学級	
6					5	-1	6 学級→5 学級		
道	旭 川 永 嶺	全	普 通	2	1	-1	計画決定時に公表		
(小計)		7 校					-7		
R 6 (2024)	宗 谷	道	利 尻	全	※商 業	1	0	-1	2 学級→1 学級
						5	4	-1	6 学級→5 学級
	釧 路	道	釧 路 湖 陵	全	※普通(大学科)	4	3	-1	4 学級→3 学級
						4	3	-1	4 学級→3 学級
						5	4	-1	5 学級→4 学級
道	釧 路 商 業	全	※商業(大学科)	3	2	-1	3 学級→2 学級		
(小計)		5 校					-5		
R 7 (2025)	空 知 北	道	深 川 東	全	(検討中)	(検討中)		-1	2 学級→1 学級
						4	3	-1	4 学級→3 学級
	胆 振 西	道	室 蘭 工 業	全	工業(大学科)			-2	
(小計)		2 校					-2		
計		1 4 校						-1 4 (-5 6 0)	

- ・美幌、釧路商業の小学科については、「(4) 職業学科の学科転換」を参照。
- ・釧路湖陵の小学科については、「(5) 普通科新学科の設置」を参照。
- ・室蘭工業の減ずる小学科については、検討中。
- ・美幌（普通科）は令和4年度（2022年度）道立高等学校入学者選抜における第2次募集後に学級減となったため、令和5年度（2023年度）の1学年総学級数は、中卒者数の状況などを勘案し、計画決定時に公表する。

(3) 再編整備

① 再編統合

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 5 (2023)	上 川 北	道	名 寄	全	普 通	3	0	-3	3 学級→0 学級
						1	0	-1	3 学級→0 学級
		道	名 寄 産 業	全	繖・繖・繖 酪農科学 生活文化	1	0	-1	
						1	0	-1	
	道	新 設 校	全	普 通 情報技術	0	4	+4	5 学級 名寄高校校舎を使用	
(小計)		再編に伴う募集停止2校、新設1校					-1 (6学級の減、新設校で5学級の増)		
R 6 (2024)	-								
R 7 (2025)	空 知 南	道	岩 見 沢 東	全	普 通	5	0	-5	5 学級→0 学級
						3	0	-3	3 学級→0 学級
		道	新 設 校	全	(検討中)	0	6	+6	6 学級 岩見沢西高校校舎を使用
	上 川 南	道	富 良 野	全	普 通	4	0	-4	4 学級→0 学級
						1	0	-1	3 学級→0 学級
		道	富 良 野 緑 峰	全	総合ビジネス 電気システム 園芸科学	1	0	-1	
						1	0	-1	
道	新 設 校	全	(検討中)	0	5	+5	5 学級 富良野緑峰高校校舎を使用		
(小計)		再編に伴う募集停止4校、新設2校					-4 (15学級の減、新設校で11学級の増)		
計		再編に伴う募集停止6校、新設3校					-5 (-2 0 0)		

② 募集停止

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 5 (2023)	才ホーツク中	道	留 辺 薬	全	総 合	1	0	- 1	1学級→0学級
R 6 (2024)	-								
R 7 (2025)	胆 振 東	道	穂 別	全	普 通	1	0	- 1	1学級→0学級
計		2校						- 2 (- 8 0)	

(4) 職業学科の学科転換（再編によるものを除く）

（学校名の前の※印は、令和3年度（2021年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 5 (2023)	才ホーツク中	道	美 幌	全	生産環境科学	1	0	- 1	(再掲) 1学年総学級数は 計画決定時に公表
					地域資源応用	1	0	- 1	
					未来農業	0	1	+ 1	
R 6 (2024)	釧 路 道	道	※釧路商業	全	国際ビジネス	1	0	- 1	(再掲) 1学年総学級数 4学級→3学級
					流通経済	1	0	- 1	
					会 計	1	0	- 1	
					情報処理	1	0	- 1	
					流通マネジメント	0	1	+ 1	
					会計マネジメント	0	1	+ 1	
					情報マネジメント	0	1	+ 1	
R 7 (2025)	-								
計		2校						- 2 (- 8 0)	

(5) 学科転換（普通科新学科の設置）（学校名の前の※印は、令和3年度（2021年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 5 (2023)	-								
R 6 (2024)	釧 路 道	道	※釧路湖陵	全	普 通	5	0	- 5	(再掲) 1学年総学級数 6学級→5学級
					(検討中)	0	4	+ 4	
	十 勝 道	道	※大 樹	全	普 通	*	0	*	
(小計)		2校				*	*	- 1	
R 7 (2025)	-								
計		2校						- 1 (- 4 0)	

・大樹は令和4年度（2022年度）道立高等学校入学者選抜における第2次募集後に学級減となったため、令和6年度（2024年度）の募集学級数及び学級増減数は、中卒者数の状況などを勘案し、計画決定時に公表する。

(6) 単位制の導入

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数	摘 要
R 5 (2023)	上 川 北 道	新 設 校	新 設 校	全	普 通	4	(再掲) 名寄・名寄産業の再編
				全	情報技術	1	
R 6 (2024)	-						
R 7 (2025)	上 川 南 道	留 萌 道	新 設 校	全	(検討中)	5	(再掲) 富良野・富良野緑峰の再編
				全	情報ビジネス	1	
					全	電気・建築	1
	(小計)		2校				
	計		3校				

(7) 普通科フィールド制の転換

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	募集学級数	摘 要
R 5 (2023)	-					
R 6 (2024)	-					
R 7 (2025)	石 狩 道	道	札幌あすかぜ	全	*	普通科に転換
			札幌平岡	全	6	普通科に転換
	(小計)		2校			
	計		2校			

・札幌あすかぜは令和4年度(2022年度)道立高等学校入学選抜における第2次募集後に学級減となったため、令和7年度(2025年度)の募集学級数は、中卒者数の状況などを勘案し、計画決定時に公表する。

(8) 地域連携特例校の導入(学校名の前の※印は、令和3年度(2021年度)に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	協力校	摘 要
R 5 (2023)	留 萌 道	道	※天 塩	全	普 通	留 萌	R 5 (2023) 募集学級数が1学級の場合に導入
			※弟 子 屈	全	普 通	釧路江南	
	(小計)		2校			2校	
R 6 (2024)	-						
R 7 (2025)	-						
	計		2校			2校	

## 5 中学校卒業生数の推計及び推移

中学校卒業生数推計表（令和4年(2022年)推計）

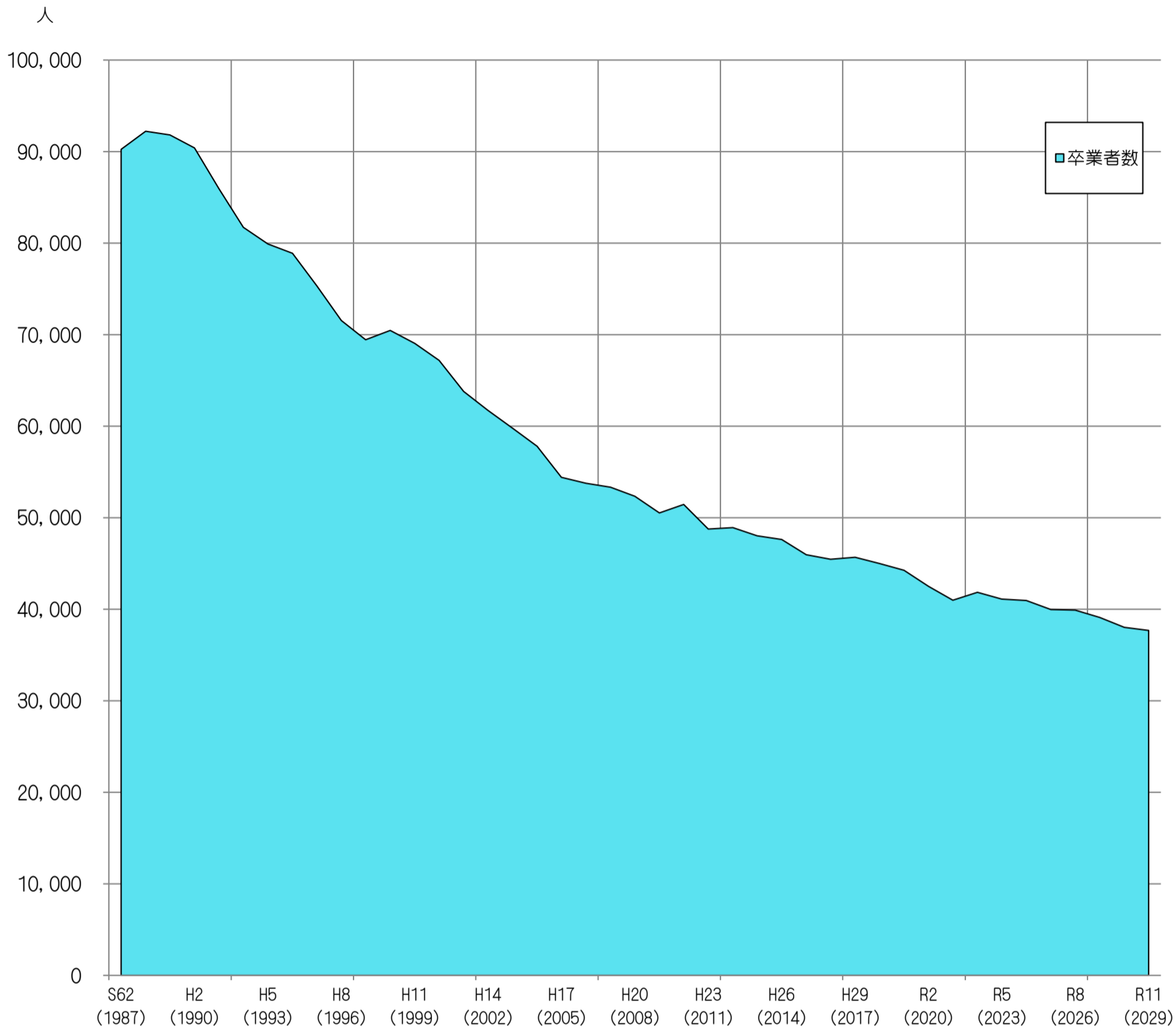
	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)	令和9年 (2027年)	令和10年 (2028年)	令和11年 (2029年)
空知南	1,087	1,096 +9	996 ▲ 100	1,046 +50	1,027 ▲ 19	1,009 ▲ 18	936 ▲ 73	965 +29
空知北	899	868 ▲ 31	826 ▲ 42	820 ▲ 6	821 +1	760 ▲ 61	721 ▲ 39	730 +9
石狩	19,336	19,348 +12	19,447 +99	19,181 ▲ 266	19,313 +132	18,830 ▲ 483	18,584 ▲ 246	18,640 +56
後志	1,424	1,394 ▲ 30	1,378 ▲ 16	1,383 +5	1,337 ▲ 46	1,301 ▲ 36	1,241 ▲ 60	1,274 +33
胆振西	1,391	1,350 ▲ 41	1,326 ▲ 24	1,224 ▲ 102	1,193 ▲ 31	1,200 +7	1,178 ▲ 22	1,067 ▲ 111
胆振東	1,745	1,654 ▲ 91	1,684 +30	1,698 +14	1,656 ▲ 42	1,620 ▲ 36	1,602 ▲ 18	1,601 ▲ 1
日高	551	515 ▲ 36	496 ▲ 19	462 ▲ 34	484 +22	454 ▲ 30	463 +9	393 ▲ 70
渡島	2,980	2,775 ▲ 205	2,953 +178	2,748 ▲ 205	2,684 ▲ 64	2,685 +1	2,533 ▲ 152	2,482 ▲ 51
檜山	226	225 ▲ 1	191 ▲ 34	205 +14	217 +12	206 ▲ 11	178 ▲ 28	188 +10
上川南	3,498	3,330 ▲ 168	3,315 ▲ 15	3,230 ▲ 85	3,200 ▲ 30	3,192 ▲ 8	3,060 ▲ 132	3,090 +30
上川北	465	447 ▲ 18	425 ▲ 22	426 +1	390 ▲ 36	383 ▲ 7	393 +10	334 ▲ 59
留萌	292	312 +20	286 ▲ 26	266 ▲ 20	290 +24	262 ▲ 28	262 ±0	237 ▲ 25
宗谷	497	461 ▲ 36	445 ▲ 16	418 ▲ 27	407 ▲ 11	392 ▲ 15	390 ▲ 2	375 ▲ 15
オホーツク中	1,176	1,154 ▲ 22	1,183 +29	1,106 ▲ 77	1,183 +77	1,066 ▲ 117	1,126 +60	1,074 ▲ 52
オホーツク東	491	447 ▲ 44	499 +52	476 ▲ 23	460 ▲ 16	485 +25	425 ▲ 60	417 ▲ 8
オホーツク西	422	424 +2	389 ▲ 35	367 ▲ 22	402 +35	400 ▲ 2	359 ▲ 41	365 +6
十勝	2,863	2,882 +19	2,833 ▲ 49	2,748 ▲ 85	2,717 ▲ 31	2,747 +30	2,636 ▲ 111	2,536 ▲ 100
釧路	1,829	1,797 ▲ 32	1,656 ▲ 141	1,588 ▲ 68	1,590 +2	1,515 ▲ 75	1,414 ▲ 101	1,392 ▲ 22
根室	673	637 ▲ 36	618 ▲ 19	585 ▲ 33	528 ▲ 57	585 +57	531 ▲ 54	527 ▲ 4
合計	41,845	41,116 ▲ 729	40,946 ▲ 170	39,977 ▲ 969	39,899 ▲ 78	39,092 ▲ 807	38,032 ▲ 1,060	37,687 ▲ 345

※中学校卒業生数は、令和4年（2022年）5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※令和4年（2022年）は実数、令和5年（2023年）以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

## 北海道における中学校卒業（見込）者数の推移 （昭和62年（1987年）～令和11年（2029年））

(注) 1 昭和62年（1987年）～令和4年（2022年）は実卒業生数である。  
 2 令和5年（2023年）～令和11年（2029年）は学校基本調査（令和4年（2022年）5月1日現在）に準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



年	S62 (1987)	S63 (1988)	H元 (1989)	H2 (1990)	H3 (1991)	H4 (1992)	H5 (1993)	H6 (1994)	H7 (1995)	H8 (1996)	H9 (1997)	H10 (1998)	H11 (1999)
卒業生数	90,257	92,222	91,810	90,400	85,909	81,733	79,911	78,884	75,348	71,550	69,441	70,462	69,047
増減	+1,298	+1,965	-412	-1,410	-4,491	-4,176	-1,822	-1,027	-3,536	-3,798	-2,109	+1,021	-1,415

年	H12 (2000)	H13 (2001)	H14 (2002)	H15 (2003)	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)
卒業生数	67,180	63,800	61,714	59,783	57,804	54,415	53,778	53,330	52,339	50,537	51,437	48,778	48,907
増減	-1,867	-3,380	-2,086	-1,931	-1,979	-3,389	-637	-448	-991	-1,802	+900	-2,659	+129

年	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
卒業生数	48,015	47,620	45,958	45,458	45,689	44,989	44,255	42,496	40,983	41,845	41,116	40,946	39,977
増減	-892	-395	-1,662	-500	+231	-700	-734	-1,759	-1,513	+862	-729	-170	-969

年	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
卒業生数	39,899	39,092	38,032	37,687
増減	-78	-807	-1,060	-345

Ⅲ 公立高等学校配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））学区別個表

空知南学区高校配置計画案										
区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	1,087	1,096	996	1,046	1,027	1,009	936	965	▲ 122	▲ 81
対前年増減		+ 9	▲ 100	+ 50	▲ 19	▲ 18	▲ 73	+ 29		
岩見沢市中卒者数	( 632 )	( 606 )	( 577 )	( 576 )	( 598 )	( 589 )	( 531 )	( 555 )	▲ 77	▲ 21
対前年増減		▲ 26	▲ 29	▲ 1	+ 22	▲ 9	▲ 58	+ 24		
美唄市中卒者数	( 133 )	( 130 )	( 117 )	( 127 )	( 111 )	( 94 )	( 97 )	( 99 )	▲ 34	▲ 28
対前年増減		▲ 3	▲ 13	+ 10	▲ 16	▲ 17	+ 3	+ 2		
三笠市中卒者数	( 52 )	( 38 )	( 45 )	( 47 )	( 48 )	( 32 )	( 46 )	( 36 )	▲ 16	▲ 11
対前年増減		▲ 14	+ 7	+ 2	+ 1	▲ 16	+ 14	▲ 10		
夕張市中卒者数	( 30 )	( 34 )	( 35 )	( 26 )	( 24 )	( 33 )	( 26 )	( 23 )	▲ 7	▲ 3
対前年増減		+ 4	+ 1	▲ 9	▲ 2	+ 9	▲ 7	▲ 3		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
岩見沢東	5		5	24		普▲1→0 (計画変更)	普▲5	○4年間で2～3学級に相当する中卒者の減 ○市町ごとの中卒者の状況、欠員の状況やこれ までの調整などを考慮した定員調整の検討が必 要 ○欠員が40人以上生じている学校について、 学科の見直しや定員調整などについて検討が必 要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの 進学状況、学校・学科の配置状況などを考 慮し、在り方の検討が必要	月形、夕張の協力校	
単 岩見沢西	3		3	22			普▲3			
新設校						+6 (学科検討中)				岩見沢西高校校舎を使用
岩見沢農業		農 7	7	76						
*岩見沢緑陵	3	商 2	5	2			普+1			
総 美唄尚栄	2		2	16						
美唄聖華		看 2	2	25						
*三 笠		家 1	1	0						
地 月 形	1		1	26						再編整備留保
地 夕 張	1		1	22						再編整備留保
長 沼	2		2	37						
栗 山	2→1		1	14	[ 計画決定時 に公表 ]			R 4 (2022)入選第2次募 集後学級減		
11校	19 →18	12	30	264			普▲8 普+1 +6(学科検討中)			

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「ア」はアンビシャススクール、「中高」は連携型中高一貫教育校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域連携特例校、「産」は産業キャンパス。(以下同)

注3 学校名の\*は市町村立学校。(以下同)

注4 令和4年度(2022年度)募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

なお、令和5年度(2023年度)の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。(以下同)

注5 「令和8～11年度(2026～2029年度)までの見通し」欄の学級数の調整については令和11年(2029年)と令和7年(2025年)の中卒者数の比較により算出。(以下同)

空知北学区高校配置計画案

区分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5~11 (2023~ 2029)年まで の増減	令和8~ 11(2026~ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	899	868	826	820	821	760	721	730	▲ 169	▲ 90
対前年増減		▲ 31	▲ 42	▲ 6	+ 1	▲ 61	▲ 39	+ 9		
滝川市中卒者数	( 317 )	( 301 )	( 273 )	( 285 )	( 286 )	( 289 )	( 247 )	( 251 )	▲ 66	▲ 34
対前年増減		▲ 16	▲ 28	+ 12	+ 1	+ 3	▲ 42	+ 4		
砂川市中卒者数	( 119 )	( 121 )	( 119 )	( 107 )	( 108 )	( 85 )	( 94 )	( 77 )	▲ 42	▲ 30
対前年増減		+ 2	▲ 2	▲ 12	+ 1	▲ 23	+ 9	▲ 17		
歌志内市中卒者数	( 18 )	( 15 )	( 13 )	( 11 )	( 6 )	( 11 )	( 8 )	( 6 )	▲ 12	▲ 5
対前年増減		▲ 3	▲ 2	▲ 2	▲ 5	+ 5	▲ 3	▲ 2		
芦別市中卒者数	( 73 )	( 57 )	( 62 )	( 64 )	( 58 )	( 52 )	( 58 )	( 51 )	▲ 22	▲ 13
対前年増減		▲ 16	+ 5	+ 2	▲ 6	▲ 6	+ 6	▲ 7		
赤平市中卒者数	( 61 )	( 62 )	( 50 )	( 52 )	( 45 )	( 50 )	( 39 )	( 44 )	▲ 17	▲ 8
対前年増減		+ 1	▲ 12	+ 2	▲ 7	+ 5	▲ 11	+ 5		
深川市中卒者数	( 123 )	( 126 )	( 118 )	( 120 )	( 118 )	( 100 )	( 115 )	( 117 )	▲ 6	▲ 3
対前年増減		+ 3	▲ 8	+ 2	▲ 2	▲ 18	+ 15	+ 2		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8~11年度(2026~2029年度) までの見通し		摘要
単 滝 川	5		5	-1				○4年間で2~3学級に相当する中卒者の減 ○滝川市内において、欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、公立高校全体での再編を含めた早急な定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 特に、地域連携特例校等以外の第1学年1学級の高校が、地域連携特例校等の再編整備の取扱い(第1学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合)と同様の在籍状況となる場合は、再編整備の検討が必要 ○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要(滝川)		
滝川工業		工 2	2	45						
*滝川西	3	商 3	6	0						
単 砂 川	2		2	18						
奈井江商業		商 1	1	23						
新十津川農業		農 1	1	8						
芦 別	2		2	34						
深川西	3		3	29						
深川東		農 1 商 1	2	50			▲1 (学科検討中)			
9校	15	9	24	206			▲1 (学科検討中)			

### 石狩学区高校配置計画案

石狩学区高校配置計画案										
区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	19,336	19,348	19,447	19,181	19,313	18,830	18,584	18,640	▲ 696	▲ 541
対前年増減		+ 12	+ 99	▲ 266	+ 132	▲ 483	▲ 246	+ 56		
札幌市中卒者数	( 15,256 )	( 15,403 )	( 15,426 )	( 15,302 )	( 15,421 )	( 14,937 )	( 14,768 )	( 14,746 )	▲ 510	▲ 556
対前年増減		+ 147	+ 23	▲ 124	+ 119	▲ 484	▲ 169	▲ 22		
江別市中卒者数	( 1,208 )	( 1,120 )	( 1,184 )	( 1,112 )	( 1,214 )	( 1,191 )	( 1,151 )	( 1,218 )	+ 10	+ 106
対前年増減		▲ 88	+ 64	▲ 72	+ 102	▲ 23	▲ 40	+ 67		
千歳市中卒者数	( 894 )	( 862 )	( 911 )	( 856 )	( 835 )	( 856 )	( 826 )	( 847 )	▲ 47	▲ 9
対前年増減		▲ 32	+ 49	▲ 55	▲ 21	+ 21	▲ 30	+ 21		
恵庭市中卒者数	( 656 )	( 682 )	( 632 )	( 653 )	( 633 )	( 614 )	( 589 )	( 620 )	▲ 36	▲ 33
対前年増減		+ 26	▲ 50	+ 21	▲ 20	▲ 19	▲ 25	+ 31		
北広島市中卒者数	( 620 )	( 634 )	( 579 )	( 617 )	( 560 )	( 581 )	( 576 )	( 545 )	▲ 75	▲ 72
対前年増減		+ 14	▲ 55	+ 38	▲ 57	+ 21	▲ 5	▲ 31		
石狩市中卒者数	( 556 )	( 533 )	( 578 )	( 514 )	( 552 )	( 543 )	( 574 )	( 565 )	+ 9	+ 51
対前年増減		▲ 23	+ 45	▲ 64	+ 38	▲ 9	+ 31	▲ 9		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
札幌東	8		8	-1				○4年間で公私比率勘案後9～10学級に相当する中卒者の減  ○市区町村ごとの中卒者の状況、欠員の状況を考慮し、札幌市の整備計画も踏まえた上で、札幌市内の再編整備も含めた定員調整の検討が必要  ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要  ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要		
札幌西	8		8	-2						
札幌南	8		8	-3						
札幌北	8		8	0						
札幌月寒	8		8	0						
札幌啓成	8		8	0						
札幌北陵	8		8	0						
単 札幌手稲	8		8	0						
札幌丘珠	8→7		7	0	[ 計画決定時に公表 ]					R 4 (2022)入選第2次募集後学級減
札幌西陵	7		7	15						
単 札幌白石	7		7	-1						
単 札幌東陵	7		7	1						
札幌南陵	3→2		2	11	[ 計画決定時に公表 ]					R 4 (2022)入選第2次募集後学級減
札幌東豊	3		3	0						
総 札幌厚別	7		7	-1						
札幌真栄	5		5	2						
フ 札幌あすかぜ	4→3		3	0	[ 計画決定時に公表 ]		[ フィールド制転換 ]		R 4 (2022)入選第2次募集後学級減	
札幌稲雲	7		7	0						
フ 札幌平岡	6		6	0			[ フィールド制転換 ]			
単 札幌英藍	7		7	1						



学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
単 札幌白陵	4→3		3	9	(計画決定時に公表)				R4(2022)入選第2次募集後学級減
札幌国際情報	4	工 商	1 3	8	-2				
江 別	5	商 家	1 1	7	22				
ア 野 幌	3		3	0					
単 大 麻	7		7	-2					
千 歳	6	商	2	8	5				
ア 千歳北陽	4		4	17					
単 北 広 島	7		7	-1					
北広島西	6→5		5	34	(計画決定時に公表)				R4(2022)入選第2次募集後学級減
石 狩 南	7		7	0					
当 別	2→1	農 家	1 1	3	55	(計画決定時に公表)			R4(2022)入選第2次募集後学級減
恵 庭 南	7		7	9					
恵 庭 北	6		6	27					
札幌工業		工	8	8	32				
札幌琴似工業		工	8	8	64				
札幌東商業		商	8	8	17				
総 石狩翔陽	8		8	0					
単 *市立札幌旭丘	8		8	-3					
単 *市立札幌藻岩	6		6	-1					
*市立札幌平岸	8		8	0					
単 *市立札幌清田	6		6	0					
中 等 *市立札幌開成	4		4	9					
*市立札幌新川	8		8	-2					
*市立札幌啓北商業		商	6	6	-1				
44校	251→ 245	40	285	310					

### 後志学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	1,424	1,394	1,378	1,383	1,337	1,301	1,241	1,274	▲ 150	▲ 109
対前年増減		▲ 30	▲ 16	+ 5	▲ 46	▲ 36	▲ 60	+ 33		
小樽市中卒者数	( 766 )	( 725 )	( 726 )	( 716 )	( 683 )	( 686 )	( 616 )	( 630 )	▲ 136	▲ 86
対前年増減		▲ 41	+ 1	▲ 10	▲ 33	+ 3	▲ 70	+ 14		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
小樽潮陵	6		6	-1	普▲1				<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年間で公私比率勘案後1～2学級に相当する中卒者の減</li> <li>○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、小樽市内において定員調整の検討が必要</li> <li>○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要</li> <li>○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要</li> <li>○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要(小樽潮陵)</li> </ul>	
単 小樽桜陽	5		5	18						
単 小樽未来創造		工 2 商 2	4	15						
小樽水産		水 4	4	9						
総 余市紅志	2→1		1	7	[ 計画決定時に公表 ]					R 4 (2022)入選第2次募集後学級減
単 岩 内	3→2	商 1	3	52	[ 計画決定時に公表 ]					R 4 (2022)入選第2次募集後学級減
地 寿 都	1		1	9						
単 倶知安	4		4	17						蘭越の協力校
地 蘭 越	1		1	21						再編整備留保
倶知安農業		農 1	1	24						再編整備留保
10校	22 →20	10	30	171	普▲1					

胆振西学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5~11 (2023~ 2029)年まで の増減	令和8~ 11(2026~ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	1,391	1,350	1,326	1,224	1,193	1,200	1,178	1,067	▲ 324	▲ 157
対前年増減		▲ 41	▲ 24	▲ 102	▲ 31	+ 7	▲ 22	▲ 111		
室蘭市中卒者数	( 550 )	( 548 )	( 560 )	( 518 )	( 512 )	( 533 )	( 509 )	( 449 )	▲ 101	▲ 69
対前年増減		▲ 2	+ 12	▲ 42	▲ 6	+ 21	▲ 24	▲ 60		
登別市中卒者数	( 442 )	( 419 )	( 397 )	( 356 )	( 355 )	( 341 )	( 356 )	( 316 )	▲ 126	▲ 40
対前年増減		▲ 23	▲ 22	▲ 41	▲ 1	▲ 14	+ 15	▲ 40		
伊達市中卒者数	( 275 )	( 282 )	( 274 )	( 253 )	( 222 )	( 240 )	( 217 )	( 223 )	▲ 52	▲ 30
対前年増減		+ 7	▲ 8	▲ 21	▲ 31	+ 18	▲ 23	+ 6		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8~11年度(2026~2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
室蘭栄	6		6	0	普▲1			○4年間で公私比率勘案後3~4学級に相当する中卒者の減  ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況を考慮し、最大学級数を設置する室蘭市を中心に、周辺市を含め、再編整備を含めた定員調整の検討が必要。		
単 室蘭清水丘	4		4	7						
総 室蘭東翔	4		4	0						
室蘭工業		工 4	4	39			工▲1			
単 登別青嶺	3		3	8						
中 登別明日	2		2	9						
単 伊達開来	6→5		5	12	( 計画決定時に公表 )					
地 虻 田		商 1	1	19						
*壮 警		農 1	1	23						
9校	25 →24	6	30	117	普▲1		工▲1			

### 胆振東学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	1,745	1,654	1,684	1,698	1,656	1,620	1,602	1,601	▲ 144	▲ 97
対前年増減		▲ 91	+ 30	+ 14	▲ 42	▲ 36	▲ 18	▲ 1		
苫小牧市中卒者数	( 1,491 )	( 1,447 )	( 1,467 )	( 1,450 )	( 1,429 )	( 1,429 )	( 1,393 )	( 1,408 )	▲ 83	▲ 42
対前年増減		▲ 44	+ 20	▲ 17	▲ 21	± 0	▲ 36	+ 15		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
苫小牧東	6		6	0				○4年間で公私比率勘案後1～2学級に相当する中卒者の減  ○これまでの定員調整の状況や学校・学科の配置状況などを考慮し、苫小牧市内及び苫小牧市周辺町において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要  ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 特に、地域連携特例校等以外の第1学年1学級の高校が、地域連携特例校等の再編整備の取扱い(第1学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合)と同様の在籍状況となる場合は、再編整備の検討が必要	厚真の協力校	
苫小牧西	4		4	0					穂別の協力校	
単 苫小牧南	4		4	0						
苫小牧工業		工 6	6	18						
苫小牧総合経済		商 3	3	12						
白老東	2		2	37						
地 厚 真	1		1	17						
地 穂 別	1		1	32			普▲1			
追 分	1		1	27						
中高 鷗 川	2		2	28						
10校	21	9	30	171			普▲1			

日高学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	551	515	496	462	484	454	463	393	▲ 158	▲ 69
対前年増減		▲ 36	▲ 19	▲ 34	+ 22	▲ 30	+ 9	▲ 70		
浦河町中卒者数	( 90 )	( 95 )	( 100 )	( 67 )	( 101 )	( 73 )	( 76 )	( 62 )	▲ 28	▲ 5
対前年増減		+ 5	+ 5	▲ 33	+ 34	▲ 28	+ 3	▲ 14		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 静 内	5		5	6					○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や地元からの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	平取の協力校
静内農業		農 2	2	21						
富 川	1		1	10						
地 平 取	1		1	29						再編整備留保
総 浦 河	3		3	31						
中高 *えりも	2		2	42						
6校	12	2	14	139						

### 渡島学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	2,980	2,775	2,953	2,748	2,684	2,685	2,533	2,482	▲ 498	▲ 266
対前年増減		▲ 205	+ 178	▲ 205	▲ 64	+ 1	▲ 152	▲ 51		
函館市中卒者数	( 1,916 )	( 1,766 )	( 1,904 )	( 1,767 )	( 1,763 )	( 1,759 )	( 1,632 )	( 1,645 )	▲ 271	▲ 122
対前年増減		▲ 150	+ 138	▲ 137	▲ 4	▲ 4	▲ 127	+ 13		
北斗市中卒者数	( 452 )	( 424 )	( 454 )	( 385 )	( 366 )	( 368 )	( 371 )	( 302 )	▲ 150	▲ 83
対前年増減		▲ 28	+ 30	▲ 69	▲ 19	+ 2	+ 3	▲ 69		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
函館中部	5		5	-1					<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年間で公私比率助産後4～5学級に相当する中卒者の減</li> <li>○中卒者数やこれまでの調整、学校・学科の配置状況を考慮し、函館市内において、定員調整の検討が必要</li> <li>○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要</li> <li>○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要</li> <li>○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携特例校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要</li> </ul>	南茅部の協力校
単 函 館 西	6		6	0						松前の協力校
単 *市立函館	6		6	0	普▲1					
函館水産		水 4	4	50						
函館商業		商 4	4	2						福島商業の協力校
函館工業		工 5	5	0						
地 南 茅 部	1		1	26						再編整備留保
上 磯	1		1	18						
七 飯	3		3	17						
大野農業		農 3	3	49						
地 松 前	1		1	20						
*知内	2		2	35						
地 福島商業		商 1	1	30						再編整備留保
八 雲	2	商 1	3	44						長万部の協力校
総 森	1		1	14						
地 長万部	1		1	27					再編整備留保	
16校	29	18	47	331	普▲1					

**檜山学区高校配置計画案**

区 分		R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5~11 (2023~ 2029)年まで の増減	令和8~ 11(2026~ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数		226	225	191	205	217	206	178	188	▲ 38	▲ 17
対前年増減			▲ 1	▲ 34	+ 14	+ 12	▲ 11	▲ 28	+ 10		
江差町中卒者数		( 45 )	( 55 )	( 43 )	( 38 )	( 39 )	( 35 )	( 33 )	( 33 )	▲ 12	▲ 5
対前年増減			+ 10	▲ 12	▲ 5	+ 1	▲ 4	▲ 2	± 0		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8~11年度(2026~2029年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
単 江 差	2		2	9				○4年間で0~1学級に相当する中卒者の減 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの 進学状況、学校・学科の配置状況などを考 慮し、在り方の検討が必要		上ノ国の協力校	
地 上ノ国	1		1	22						再編整備留保	
総 檜山北	2		2	23							
中高 *奥 尻	1		1	14							
4校	6	0	6	68							

上川南学区高校配置計画案

区分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5~11 (2023~ 2029)年まで の増減	令和8~ 11(2026~ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	3,498	3,330	3,315	3,230	3,200	3,192	3,060	3,090	▲ 408	▲ 140
対前年増減		▲ 168	▲ 15	▲ 85	▲ 30	▲ 8	▲ 132	+ 30		
旭川市中卒者数	( 2,715 )	( 2,558 )	( 2,572 )	( 2,495 )	( 2,451 )	( 2,466 )	( 2,339 )	( 2,379 )	▲ 336	▲ 116
対前年増減		▲ 157	+ 14	▲ 77	▲ 44	+ 15	▲ 127	+ 40		
富良野市中卒者数	( 168 )	( 159 )	( 162 )	( 146 )	( 169 )	( 149 )	( 153 )	( 142 )	▲ 26	▲ 4
対前年増減		▲ 9	+ 3	▲ 16	+ 23	▲ 20	+ 4	▲ 11		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8~11年度(2026~2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
旭川東	6		6	-1				○4年間で公私比率勘案後2~3学級に相当する中卒者の減		
単 旭川西	5		5	0				○中卒者数やこれまでの調整などを考慮し、旭川市内や旭川市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた再編整備や定員調整の検討が必要		
単 旭川北	6		6	-1	普▲1			○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要		
総 旭川南	6		6	0	総▲1			○第1学年1学級の高校のうち、地理的状况から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携特例校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要		
単 旭川永嶺	6		6	0	普▲1					
旭川商業		商 5	5	2						
旭川工業		工 6	6	9						
旭川農業		農 4	4	-4						
鷹 栖	1		1	3						
東 川	2		2	7						
美 瑛	2→1		1	11	〔 計画決定時に公表 〕					R 4 (2022)入選第2次募集後学級減
中高 上 川	1		1	15						
単 富良野	4		4	24		普▲4				
富良野緑峰		商 1 農 1 工 1	3	66		商▲1 農▲1 工▲1				
新設校						+5 単位制導入 (学科検討中)				富良野緑峰高校校舎を使用
上富良野	1		1	17						
*南富良野	1		1	22						
16校	41→ 40	18	58	170	普▲2 総▲1		普▲4 商▲1 農▲1 工▲1 +5 (学科検討中)			



### 上川北学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5~11 (2023~ 2029)年まで の増減	令和8~ 11(2026~ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	465	447	425	426	390	383	393	334	▲ 131	▲ 92
対前年増減		▲ 18	▲ 22	+ 1	▲ 36	▲ 7	+ 10	▲ 59		
士別市中卒者数	( 133 )	( 137 )	( 115 )	( 126 )	( 108 )	( 115 )	( 85 )	( 99 )	▲ 34	▲ 27
対前年増減		+ 4	▲ 22	+ 11	▲ 18	+ 7	▲ 30	+ 14		
名寄市中卒者数	( 223 )	( 201 )	( 198 )	( 180 )	( 172 )	( 179 )	( 193 )	( 157 )	▲ 66	▲ 23
対前年増減		▲ 22	▲ 3	▲ 18	▲ 8	+ 7	+ 14	▲ 36		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8~11年度 (2026~2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計					○4年間で2~3学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、 学科の見直しや定員調整などについて 検討が必要		
士別翔雲	3	商 1	4	51						下川商業の協力校
地 下川商業		商 1	1	10						
名 寄	3		3	13	普▲3					美深の協力校
産 名寄産業		工 1 農 1 家 1	3	86	工▲1 農▲1 家▲1					
新 設 校					普+4 工+1 単位制導入					名寄高校校舎を使用
地 美 深	1		1	18						
総 *剣 淵	1		1	16						
*おといねっぶ 美術工芸	1		1	3						
7校	9	5	14	197	普+4 普▲3 工+1 工▲1 農▲1 家▲1					

留萌学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	292	312	286	266	290	262	262	237	▲ 55	▲ 29
対前年増減		+ 20	▲ 26	▲ 20	+ 24	▲ 28	+ 0	▲ 25		
留萌市中卒者数	( 138 )	( 153 )	( 127 )	( 118 )	( 122 )	( 131 )	( 102 )	( 103 )	▲ 35	▲ 15
対前年増減		+ 15	▲ 26	▲ 9	+ 4	+ 9	▲ 29	+ 1		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 留 萌	4	工 1 商 1	6	86			工業科・商業科 単位制導入	○4年間で0～1学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、 学科の見直しや定員調整などについて 検討が必要		苫前商業、天塩の協力校
羽 幌	2→1		1	4	[ 計画決定時 に公表 ]			○小規模校について、中卒者数やこれまでの 進学状況、学校・学科の配置状況などを考 慮し、在り方の検討が必要		R 4 (2022)入選第2次募 集後学級減
地 苫前商業		商 1	1	16				○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況 から再編が困難であり、かつ地元からの進 学率が高い高校については、地域連携特例 校に位置付け、遠隔システムを活用した教 育環境の充実や、地域と連携した高校の魅 力化等により、可能な限り存続を図ること が必要		R 4 (2022)入選第2次募 集後学級減
天 塩	2→1		1	9	地域連携特例校 導入(計画変更) 募集学級数が 1学級の場合 に導入					
遠別農業		農 1	1	15						
5校	8→6	4	10	130						

### 宗谷学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	497	461	445	418	407	392	390	375	▲ 122	▲ 43
対前年増減		▲ 36	▲ 16	▲ 27	▲ 11	▲ 15	▲ 2	▲ 15		
稚内市中卒者数	( 269 )	( 235 )	( 228 )	( 215 )	( 224 )	( 203 )	( 216 )	( 203 )	▲ 66	▲ 12
対前年増減		▲ 34	▲ 7	▲ 13	+ 9	▲ 21	+ 13	▲ 13		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 稚 内	3	商 1 看 1	5	56				<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年間で公私比率勘案後0～1学級に相当する中卒者の減</li> <li>○欠員が40人以上生じている学校について、中卒者数も考慮し、学科の見直しや定員調整などについて早急な検討が必要</li> <li>○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要</li> <li>○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携特例校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要</li> </ul>	豊富の協力校 普通科、商業科単位制	
地 豊 富	1		1	22					再編整備留保	
浜 頓 別	1		1	15						
枝 幸	2		2	38						
利 尻	1	商 1	2	53		商▲1				
礼 文	1		1	19						
6校	9	3	12	203		商▲1				

オホーツク中学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	1,176	1,154	1,183	1,106	1,183	1,066	1,126	1,074	▲ 102	▲ 32
対前年増減		▲ 22	+ 29	▲ 77	+ 77	▲ 117	+ 60	▲ 52		
北見市中卒者数	( 880 )	( 916 )	( 921 )	( 838 )	( 899 )	( 821 )	( 858 )	( 842 )	▲ 38	4
対前年増減		+ 36	+ 5	▲ 83	+ 61	▲ 78	+ 37	▲ 16		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
北見北斗	6		6	11				○4年間で公私比率勘案後0～1学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、北見市内で再編を含めた定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	常呂の協力校	
単 北見柏陽	5		5	0					佐呂間の協力校	
単 北見緑陵	3		3	4						
北見工業		工 3	3	33						
北見商業		商 3	3	29						
置 戸		福 1	1	26					再編整備留保	
総 留 辺 薬	1		1	18	総▲1					
地 佐 呂 間	1		1	15						
地 常 呂	1		1	29					再編整備留保	
訓 子 府	1		1	17						
地 津 別	1		1	18						
美 幌	2→1	農 2	3	53	農▲1 (普通科の 募集学級数は 計画決定時に 公表)				津別の協力校 R4(2022)入選第2次募集 後学級減	
12校	21→ 20	9	29	253	総▲1 農▲1					

**オホーツク東学区高校配置計画案**

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5~11 (2023~ 2029)年まで の増減	令和8~ 11(2026~ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	491	447	499	476	460	485	425	417	▲ 74	▲ 59
対前年増減		▲ 44	+ 52	▲ 23	▲ 16	+ 25	▲ 60	▲ 8		
網走市中卒者数	( 266 )	( 242 )	( 256 )	( 259 )	( 249 )	( 256 )	( 220 )	( 214 )	▲ 52	▲ 45
対前年増減		▲ 24	+ 14	+ 3	▲ 10	+ 7	▲ 36	▲ 6		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数 普通   職業   計			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8~11年度 (2026~2029年度) までの見通し	摘要	
単 網走南ヶ丘	4		4	9				○4年間で1~2学級に相当する中卒者の減 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携特別校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要	清里の協力校	
網走桂陽	2	商 2	4	36						
総 斜 里	1		1	14						
地 清 里	1		1	16						
総 *大 空	1		1	0						
5校	9	2	11	75						

### オホーツク西学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	422	424	389	367	402	400	359	365	▲ 57	▲ 2
対前年増減		+ 2	▲ 35	▲ 22	+ 35	▲ 2	▲ 41	+ 6		
紋別市中卒者数	( 139 )	( 142 )	( 129 )	( 110 )	( 137 )	( 142 )	( 111 )	( 127 )	▲ 12	+ 17
対前年増減		+ 3	▲ 13	▲ 19	+ 27	+ 5	▲ 31	+ 16		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 遠 軽	5		5	27					○4年間で0～1学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	
紋 別	3	商 1 工 1	5	61						興部、雄武の協力校
地 興 部	1		1	25						再編整備留保
地 雄 武	1		1	18						
中 湧 別	2→1		1	10	( 計画決定時 に 公 表 )					R 4 (2022)入選第2次募集後学級減
5校	12→ 11	2	13	141						

### 十勝学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減	
	学区内中卒者数	2,863	2,882	2,833	2,748	2,717	2,747	2,636	2,536	▲ 327	▲ 212
対前年増減		+ 19	▲ 49	▲ 85	▲ 31	+ 30	▲ 111	▲ 100			
帯広市中卒者数	( 1,319 )	( 1,317 )	( 1,342 )	( 1,323 )	( 1,295 )	( 1,352 )	( 1,299 )	( 1,223 )	▲ 96	▲ 100	
対前年増減		▲ 2	+ 25	▲ 19	▲ 28	+ 57	▲ 53	▲ 76			
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し		摘要	
帯広柏葉	6		6	-1				<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年間で公私比率勘案後4～5学級に相当する中卒者の減</li> <li>○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、帯広市内及び帯広市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の検討が必要</li> <li>○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要</li> <li>○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要</li> <li>○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携特例校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要</li> </ul>		本別の協力校	
単 帯広三条	6		6	0							
帯広緑陽	4		4	-1							
帯広工業		工 4	4	0							
帯広農業		農 5	5	8							
*帯広南商業		商 5	5	0							
単 音 更	3		3	27							
芽 室	4		4	12							
幕別清陵	3		3	32							
上 土 幌	2		2	26							
*土 幌		農 2	2	52							
総 清 水	3→2		2	2	( 計画決定時に公表 )						R 4 (2022)入選第2次募集後学級減
中高 鹿 追	2		2	31							
更別農業		農 2	2	50							
大 樹	2→1		1	13	( 計画決定時に公表 )	普通科新学科へ転換					R 4 (2022)入選第2次募集後学級減
中高 広 尾	2→1		1	8	( 計画決定時に公表 )						R 4 (2022)入選第2次募集後学級減
総 池 田	2→1		1	1	( 計画決定時に公表 )						R 4 (2022)入選第2次募集後学級減
地 本 別	1		1	19							
足 寄	2		2	23							
19校	42→38	18	56	302							



釧路学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	1,829	1,797	1,656	1,588	1,590	1,515	1,414	1,392	▲ 437	▲ 196
対前年増減		▲ 32	▲ 141	▲ 68	+ 2	▲ 75	▲ 101	▲ 22		
釧路市中卒者数	( 1,349 )	( 1,349 )	( 1,213 )	( 1,178 )	( 1,193 )	( 1,143 )	( 1,055 )	( 1,029 )	▲ 320	▲ 149
対前年増減		± 0	▲ 136	▲ 35	+ 15	▲ 50	▲ 88	▲ 26		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し	摘要	
釧路湖陵	6		6	12		普▲1 普通科新学科へ転換		○4年間で公私比率勘案後4～5学級に相当する中卒者の減 ○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、釧路市内及び釧路市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の早急な検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	阿寒の協力校	
単 釧路江南	5		5	0					弟子屈の協力校	
釧路商業		商 4	4	3		商▲1				
釧路工業		工 5	5	17						
総 釧路明輝	5		5	0		総▲1				
単 *釧路北陽	5		5	-1						
釧路東	3		3	24		普▲1				
地 阿 寒	1		1	29					再編整備留保	
白 糠	1		1	14						
総 標 茶	3→2		2	14						
弟子屈	1		1	18	地域連携特例校 導入(計画変更)					
厚岸翔洋	1	水 1	2	48						
*霧多布	2		2	35						
13校	33→ 32	10	42	213		普▲2 商▲1 総▲1				



### 根室学区高校配置計画案

区 分	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	令和5～11 (2023～ 2029)年まで の増減	令和8～ 11(2026～ 2029)年まで の増減
学区内中卒者数	673	637	618	585	528	585	531	527	▲ 146	▲ 58
対前年増減		▲ 36	▲ 19	▲ 33	▲ 57	+ 57	▲ 54	▲ 4		
根室市中卒者数	( 200 )	( 191 )	( 178 )	( 157 )	( 142 )	( 150 )	( 141 )	( 160 )	▲ 40	+ 3
対前年増減		▲ 9	▲ 13	▲ 21	▲ 15	+ 8	▲ 9	+ 19		
学校名	令和4年度 (2022年度)の状況 学科及び募集学級数			R 4 (2022) 欠員	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～11年度(2026～2029年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計					○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員 の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、 学科の見直しや定員調整などについて 検討が必要		標津、羅臼の協力校
単 根 室	3	商 2	5	33						
別 海	3	農 1	4	67						
中 標 津	4	商 1	5	37						
地 標 津	1		1	17						
*中標津農業		農 2	2	39						
中高地 羅 臼	1		1	19						
6校	12	6	18	212						

《全学区共通事項》  
 令和5年度(2023年度)以降の各通学区域における生徒の進路動向を見極めて、毎年度再検討するとともに、新たに計画に反映させるものとする。